

# 中国の農業・農村金融を担う金融機関の組織改組

## —四川省農村信用社連合社の農商連合銀行への改組事例—

主任研究員 王 雷軒

### 1 中国全土における省農村信用社連合社の組織改組

中国の農村信用社は、従業員や地域企業を有力な会員とする農村部の金融機関として活動するのが一般的である。2003年の農村金融改革では、農村信用社の新たな連合組織として省農村信用連合社(以下、省連合社)が設立された。省連合社は、省級政府(中国の地方行政体制は「省-市-県-郷鎮」である)の直接管理下に置かれる一方、省内の農村信用社に対して業務指導等を行い、事実上、農村信用社の上級組織としての役割を果たしてきた。

もっとも、省連合社は農村信用社の発展に大きく貢献してきた反面、法人資格を有する民間組織であると同時に、省級政府から業界管理を委託された機関でもあるという「二重的な性格」を有しており、制度的な課題も抱えている。このため、省連合社の複合的な性格を改め、役割を明確にする改革が継続的に進められてきた(詳細は王雷軒(2014)を参照)。

近年、中国のマクロ経済環境が大きく変化するなかで、一部の農村信用社、農村信用社の再編により新設された農村商業銀行(以下、農商銀行)では、不良債権比率の上昇など金融リスクが顕在化している。こうした状況を受け、金融当局は「各省の実情に応じた対応(一省一策)」を基本方針として掲げ、2022年以降、省連合社改革の加速を図っている。

このような流れのなか、四川省では2024年1月、省連合社を改組し、四川農村商業連合銀行(Sichuan Rural Commercial United Bank、以下、四川農商連合銀行)を正式に発足させ

た。これは中国西部地域で初めての農商連合銀行への改組事例であり、以下では、その設立過程、取組内容および改組の効果について紹介する。

### 2 四川農商連合銀行の設立過程

四川省において、農村信用社や農商銀行に対する指導・管理権限を有する省連合社は2005年に設立された。前述の制度的背景を踏まえ、省級政府は2020年に省連合社の改組方針を決定した。この方針の下、2022年には樂山市・巴中市、2023年には阿坝(アバ)州、徳陽市、雅安市などで農商銀行が相次いで開業し、省内の市級・県級農村信用社の農商銀行への改組が完了した。

これを受け、2024年1月5日、国家金融監督管理総局は四川農商連合銀行の設立を承認した。翌6日には省都の成都において創立大会および第1回株主総会が開催され、省連合社理事長であった艾毓斌(Ai Yubin)氏が初代とうじちよう董事長(取締役会長)に選出された。

### 3 資本増強と株主構造の変化

今回の組織改組により、四川農商連合銀行の資本金は、旧省連合社の0.3億元から220億元へと大幅に増資された。同行の株主は、省および市(州)級の国有企業34社で構成されている。具体的には、地方国有企業大手である四川ファイナンシャルホールディングス(金融控股集团)、成都城建投資管理集団有限責任公司、眉山市宏宇資産管理公司が主要株主となっている。従来の省内農村信用社や農商銀行などによる出資体制から、国有資本主導の

ガバナンス構造へと移行した点が大きな特徴である。

#### 4 市級統一法人化の推進と市農商銀行への出資

金融当局が掲げる中小金融機関の合併・再編と質的向上の方針を受け、同行は設立後、県級農商銀行を市級農商銀行へと統合する「市級統一法人化」を推進している。2024年末時点で、11行の県級農商銀行が金融規制当局から解散認可を受け、市級農商銀行に吸収合併された。2025年9月時点では、すでに14行の市級統一法人農商銀行が設立されており、これは全省21の市・州の3分の2に相当する。

また、市級統一法人化に加え、同行は攀枝花市、遂寧市、涼山市、眉山市、宜賓市、綿陽市、内江市、瀘州市・徳陽市の計9行の市級農商銀行に直接出資を行った。さらに2024年には、他行が保有していた綿陽市農商銀行や内江市農商銀行の一部株式を譲り受けるなど、資本関係の整理を進めている。

#### 5 組織改組の効果と今後の展望

市級統一法人化の推進は、従来の農商銀行が抱えていた「小規模・分散・せい弱」といった課題の軽減・解消に寄与している。また、市本店－県(区)支店－郷鎮支店という体制への移行により、より効率的な業務運営が可能となった。

組織改組後、同行は不良債権処理や担保資産の回収を進めるとともに、資金過不足の調整やリスク管理の一元化を通じて経営効率を向上させてきた。その結果、新規貸出金の不良債権比率は1%以内に抑制されている。

さらに、農業経営体や中小・零細企業向け金融サービスを強化し、「蜀信e貸」(申し込みから審査、契約、借入れまでをモバイルアプリで完結できるローン)など72種類の新商品

を開発した。これにより、農業・農村分野への資金供給が改善され、地域経済への貢献度が高まっている。また、組織構造のフラット化によって垂直的な管理体制が整備された結果、省内における高リスク中小金融機関は解消され、地域金融の安定化にも寄与している。

今回の組織改組は、単なる名称変更にとどまらず、不良資産の切り離しと大規模な資本注入を同時に実施することで、経営基盤を抜本的に刷新した点に大きな意義がある。特に、新規貸出金の不良債権比率を1%以内に抑えつつ預金規模を拡大している点は、同行のリスク管理能力と地域社会からの信認が同時に向上していることを示唆している。

その結果、2024年末時点で、同行は総資産2.4兆元、預金2.0兆元、貸出1.1兆元、行員3.6万人、営業拠点約5,000か所、農業農村金融サービスステーション(銀行の支店がない村で、農民に対して融資相談や基本的な銀行業務を提供する拠点)1.1万か所を有する四川省最大の金融機関となった。

総じて、四川省の事例は、ガバナンス強化、リスク解消、経営効率の向上、農業・農村および中小・零細企業支援の強化といった点で顕著な成果を上げていると評価できる。同行は今後、農業・農村金融、地域金融、包摂金融を担う「三つの主力軍(メインバンク)」となることを目標としており、その動向が引き続き注目される。

#### <主要参考資料、ウェブサイト>

- ・王雷軒(2014年)「中国の農村信用社連合組織の構造と機能—省農村信用社連合社を中心に—」『農林金融』2月号
- ・四川農商連合銀行のウェブサイト：<https://www.scruc.com> (最終アクセス2026年2月5日)
- ・中国人民銀行農村金融服務研究小組(2025)『中国農村金融服務報告2024』中国金融出版社

(おう らいけん)